

米袋に「がんばれ東北!」と書かれたステッカーをはる生徒―南区の興陽高校で



生徒が育てた米、被災地へ

興陽高 復旧への祈り添え

興陽高校は18日、生徒が育てた米(ヒノヒカリ)約800㍉を被災者のために東北大医学部付属病院(仙台市青葉区)と岩手県釜石市に送る。17日は農業クラブと生徒会の生徒

約30人が「がんばれ東北!」と書かれたステッカーをはり付けた。同校によると、東北大病院から関係者を通じて米の支援要請があったという。昨秋収穫した米をJ A岡山の協

力で無洗米に精米して10㍉ずつ袋詰めした。約500㍉を教員がトラックで病院まで運び、約300㍉は国際医療救援団体「AMDA」を通じて釜石市に送る。後日約500㍉を追加で送るとい

う。米袋には「1日も早く復旧されますようお祈り申し上げます」などのメッセージがはられた。造園デザイン科1年の吉村惇史君(16)は「米が少しでも役立つば」と話した。

【石川勝義】

食料や医療品
積み被災地へ

AMDA

国際医療救援団体
「AMDA」(本部・

北区)は17日、AMDA 社会開発機構の山上正道さん(41)と長泉寺(北区)の宮本龍門住職(28)を被災地に派遣した。神戸市で看護師ら2人と合流し、18日に現地入りする。

山上さんらは食料や医療品などの救援物資を車に積んで出発。仙台市や岩手県釜石市で被災者支援に当たる。寒さが厳しく、食料も



食料や医療品などの救援物資を車に運ぶ職員ら
―北区伊福町のAMDAで

不足し、被災者の体調の悪化が懸念されるとい

う。発生翌日の12日から13日夜まで仙台市若林区の高齢者施設で活動したAMDA本部職員の石岡未和看護師(30)は「食料が数日分しかなく不安に感じている人も。おむつも足りずに衛生面の維持が難しく、感染症のリスクが高まっていた」と話した。【棕田佳代】